

年頭所感



「有志竟成」の精神で難局を 乗り切る

理事長 佐柳 正三

令和2年に始まったコロナ禍を乗り越え、本法人の各教育機関にも漸く以前の風景が戻り、令和6年という新しい年を迎えました。謹んで新春のご祝辞を申し上げます。

令和2年に始まったコロナ禍を乗り越え、本法人の各教育機関にも漸く以前の風景が戻り、令和6年という新しい年を迎えました。謹んで新春のご祝辞を申し上げます。

令和2年に始まったコロナ禍を乗り越え、本法人の各教育機関にも漸く以前の風景が戻り、令和6年という新しい年を迎えました。謹んで新春のご祝辞を申し上げます。



多様性を尊重する学修環境を

学長 針本 正行

あらたまの年を迎えて言わざるを得ないところですが、新年早々、地震、津波の災禍が能登半島を襲っています。被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。被災された方々の学びを守るべく支援してまいります。

さて、昨年は、アフターコロナへと社会は大きく変容を遂げました。大学も、対面による新入生歓迎が復活するなど、学生の活気がキャンパスにようやく戻ってきました。深く感謝したいと思います。

また、人工知能（AI）技術を利用し文書を作成する生成系AIとも対峙いたしました。その利用方法を通じて、教育現場として、主體的な学びとは何か、知の創造とはどういうこと

見据え、「伝統に立つ改革、そして未来へ」というテーマのもと、令和4年にスタートした中期5カ年計画は、丸2年が経過としていきます。法人傘下の各教育機関は、この2年間にこそ目標達成に向けた体制の確立に費やされた部分が大きかったものの、3年目に入る今年は各施策への積極的な取り組みが期待されます。

また、創立140周年記念事業のひとつである神楽造替と境内整備事業ですが、昨年9月11日に浄園のなか仮殿遷座祭を斎行し、御祭神に御鎮座93年を迎えた現本殿から仮殿にお遷り頂き、本格的に工事が始まりまして、新殿は令和7年度に竣工予定です。

また、創立140周年記念事業のひとつである神楽造替と境内整備事業ですが、昨年9月11日に浄園のなか仮殿遷座祭を斎行し、御祭神に御鎮座93年を迎えた現本殿から仮殿にお遷り頂き、本格的に工事が始まりまして、新殿は令和7年度に竣工予定です。

る予定です。

昨今の学校法人を取り巻く状況は、国内の少子化等の問題だけでなく、AI・情報化への急速な変化に対応する組織作りを急がなければならないなど、本法人も解決しなければならぬ課題が山積しております。この状況打破のため、役教職員は「有志竟成」の精神で中期計画の目標達成に向けて邁進し、この難局を乗り越えてまいりま

本年度が皆さまにとってより良い一年となりますようご祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

かを問い直すことが今もなお求められています。

本年4月には、産学連携による寄附講座「デジタル・ネットワークの基礎（事例から学ぶ企業のDX戦略）」が開講されます。今後とも文理を横断し、社会と連携した複眼的思考の学びの充実を進めてまいります。また、改正された障害者差別解消法が施行され、大学での合理的配慮の提供が義務化されるとともに、新学習指導要領に基づく入学試験も始まり、大学は新たな学びを経た学生を受け入れることとなります。

さまざまな場面で、多様な価値観や発想を持ち、これまでにない学修方法を経験した人々が交流します。学生一人ひとりが、自分と他者との共通点や相



年頭コラム 今年の干支にちなんで

首里城正殿前の大龍柱

沖縄国際大学名誉教授 狩俣 恵一

今年の干支の辰は、架空の龍である。中国の龍は皇帝の権威の象徴とされるが、琉球では王の権威だけでなく、日本と同じく大蛇と重なって風雨を司る。また、首里城正殿前の阿吽の大龍柱は、その名が示すように柱の形をしており、大蛇のように曲がりくねっていない。が、その力

琉球国の史書『球陽』は、「一五〇八年に欄干（勾欄）と大龍柱をはじめ建てた」と記す。また、百浦添欄干之銘（首里城正殿前欄干碑文）の本文は、「この欄干がないと宮殿として十全ではない」と記し、



首里城正殿 1877年ルヴェルトガ撮影「原版所蔵者：Hervé Bernard, France」（沖縄県公文書館蔵）

後段では「中国にならって青石を削って石階段に欄干を造った」と述べる。ちなみに、ムンダス（百浦添）と称された首里城正殿は高い場所であり、その前の広場（御庭）は低い位置にある。フランス海軍のルヴェルトガ少尉撮影のハの字型の石階段欄干は、高い正殿と低い御庭をつないでいる。

石階段に欄干を必要としたのは、正殿と御庭をつなぐハの字型階段を「橋に見立てた」からであろう。つまり、正殿前のハの字型階段は橋であり、川を隔てた向こう岸が聖なる正殿で、こちら岸が俗なる御庭であると考えられた。そして、その思想は、久高島のイザイホー祭りの（七つ橋渡り）という儀礼にも窺える。七つ橋は、七段の梯子を砂のなかに埋めたようなもので、神アシャギの前に設置される。その七つ橋は、神アシャギと地上をつなぐと同時に、聖なる空間と俗なる空間の（結界）でもある。換言するならば、首里城正殿と地上の広場をつなぐ石階段欄干は（境界の橋）であり、（結界）である。

また、大龍柱は欄干と同時に建てられたが、その理由は欄干に接続した大龍柱が悪霊や邪神をガードする役目を担っているからである。琉球の風水では、直進する悪霊や邪神の防御に熱心である。首里城正殿と奉神門が直行せず、御庭の浮道が斜めに走行するのも、防御のためである。沖縄各地の丁字路の石敢當、屋敷門内の石垣積み、屏風、獅子も悪霊や邪神を防御する装置である。

要するに、大龍柱はシーサーやヒンプンなどと同じように、外から侵入する悪霊や邪神のほうに向かうので、正面向きとなる。平成復元のようには双龍が向き合う相対向きでは、防御の役目を果たすことができないからである。沖縄県誕生（大龍柱破壊）以前のルヴェルトガの写真は、大龍柱が正面向きであったことを如実に示している。

新潟コメ作りワークショップ
彬子女王殿下 太宰府天満宮
へ奉納



彬子女王殿下（本学特別招聘教授）が総裁を務められる一般社団法人心游舎主催の「新米奉納お米作りワークショップ」で収穫された新米を奉納する「心游舎お米奉納奉告祭」が昨年12月7日に太宰府天満宮で行われた。

同ワークショップは新潟市北区の農園で、田植え、草取り、稲刈りを行い日本文化や歴史に触れるものであり、9月の稲刈りでは、ボランティア活動の一環として本学学生9名も参加した。

奉告祭後の食事会には、本学からは学修支援センター長の星野光樹・神道文化学部准教授らも参加した。彬子女王殿下は収穫した新米もお召し上がりになられた。

**井上順孝名誉教授
文化庁長官表彰を受賞**

井上順孝・国学院大学名誉教授が、日本の文化振興に貢献した人に贈られる令和5年度の文化庁長官表彰に選ばれた。井上名誉教授は、長年にわたり日本宗教連盟の理事として学識経験者の立場から宗教行政に多大な貢献をしたほか、宗教文化教育推進センターを設立し、「宗教文化士」認定資格の制度推進にも多大な貢献をしていることが認められ今回の受賞となった。表彰式は昨年12月19日、京都市内で行われた。

渋谷近現代研究会シンポジウム 松濤と代官山の暮らしを探る

根岸茂夫・国学院大学名誉教授が代表を務める渋谷近現代研究会主催、国学院大学研究開発推進センター共催の公開シンポジウム「松濤と代官山の暮らしを探る―戦前期渋谷の住宅開発と生活空間」が昨年12月10日に代官山ヒルサイドテラス（渋谷区）で科学研究費助成事業の一環として開催された。

手塚雄太文学部准教授の趣旨説明ののち、白根記念渋谷区郷土博物館・文学館学芸員の田原光泰氏ら6人の報告者から、松濤・代官山地域を中心に、渋谷の住宅開発を担った人々と渋谷に住んだ人々、双方向からの研究報告が行われた。続けて報告内容を横断する形で司会・コメンテーターを加えて10名でディスカッションが展開され、白熱した議論が交わされた。

「合格者と語る会」司法試験・ 法科大学院入試・公務員試験 合格者からアドバイス

法学部が主催する令和5年度「合格者と語る会」が昨年12月13日に渋谷キャンパスで開催された。参加した在学生の前で、公務員試験や法科大学院入試、司法試験に合格した法学部の在学生や卒業生ら6人が登壇した。

公務員試験の合格者は、「うまくいかないことがあっても、引きずらずに挑戦してほしい」と語り、法科大学院入試に合格した学生からは、志望校の選び方や勉強法などが紹介された。また司法試験に合格した卒業生は、在学中から司法試験合格までの勉強法や過ごし方について詳しく振り返りながら後輩たちにアドバイスを送っていた。



「月見座頭」を披露する山本東次郎師(右)

自らの罪を覆い隠そうとする滑稽さを描いた舞台上に興味津々な様子。

東次郎師がシテ（主役）の座頭を演じた「月見座頭」は、名目の代わりに虫の音を楽しむ座頭と、アド（脇役）

解説の後、司会を務めた人間開発学部の学生から花束を贈られた東次郎師はプログラムに載っていない「住吉」を披露。一門の謡に合わせた力強い舞で客席を魅了した。

れ、小学生向けには6年生の国語の教科書に掲載されている「柿山伏」が演じられた。路傍の柿の実をつまみ食いした山伏と柿の木の持ち主との揉めごとを描いた「柿山伏」を鑑賞した子どもらは、

狂言という名の由来について「中国の仏教界で詩作や文学などのフィクションを『狂言綺語』として排斥しようとしたのに対し、白楽天が対抗したことで『狂言』という言葉が定着した」などと説明し

りに満席の観客を迎えての開催となった。会場の1号館の教室には特設舞台が作られ、一般上演初日に「磁石」「節」「船渡賀」、2日目に「二分」「月見座頭」「棒縛」の6番組(演目)が披露さ

込められた意味に客席は感嘆していた。

上演後に番組を解説した東次郎師は、「狂言は平和主義の心理劇。人間の愚かさを伝えることで争いを防ぐ」と伝統芸能の神髄を強調。さらに

校から6年生約400人を招いての上演会も催され、普段は接することの少ない古典芸能の魅力を満喫した。

「狂言の会」はコロナ禍で開催が途切れた期間があったものの今回で24回目。久しぶりの

もあるもの」と嘆き悔し涙を流す姿が描かれた。「目の見えない人をいじめる舞台と取られがちだが、(目で) 見える見えないではなく心眼によって見極められるかを伝える」(東次郎師)と、演目による

言「満喫」

が演じる上京の者が出会い、意気投合し、歌を詠み、酒を酌み交わす。座頭が帰る途中、「今ひとつの慰み」と上京の者が戻り、座頭を突き飛ばす。別人による乱暴と信じ

日本文化研究所が令和5年度国際研究フォーラム開催
ツーリズムとの関わりによる宗教の変容を探る



会風景-『STAGE』[Singers & Stages]『台湾綜芸団』を例に―」として、自身が撮影した台湾独特の移動舞台車の写真を通じ、台湾民衆の精神性を見る側の視点で浮かび上げられた。また、大和大学社会学部加藤久子教授は「共生の物語をつ

と題し、ギリシャ・アテネでのアクロポリス博物館の新設と、エーゲ海・サントリーニ島でのキリスト教の教会堂を中心とした伝統的集落の再生事例を通し、文化遺産再生の意義を説明した。次に写真家で台湾・華梵大学の沈昭良教授が「写真と社

事例報告では最初に石本東生・観光まちづくり学部教授が『ギリシヤ』…神話とキリスト教の舞台そして観光―文化遺産を活かす共存―とツリーズムが絡んだ内外の事例を報告した。

人々に見られることで何がどう変容するのかわかる、見る側や見せる側の変化も含めて探った。

フォーラムでは平藤喜久子・日本文化研究所長（神道文化学部教授）を進行役に、まず同研究所の星野靖二・研究開発推進機構教授が趣旨を

国学院大学研究開発推進機構日本文化研究所は昨年12月17日、「見られることで何が変わるのか——ツーリズムと宗教文化——」と題した令和5年度の国際研究フォーラムを渋谷キヤンパスで開催した。宗教とツーリズムとの関わりが、魚沼市、宗教バ

ンでは、宗教実践の場をどう守るかなど現代宗教が抱える諸問題を巡り登壇者が活発に意見を交換。会場からの質問も多く、観光客増で変容する宗教への関心の高さをうかがわせた。

誉教授）は「宗教とツーリズムとの
 関わりに関しては、今後も高い問題
 意識を持つて研究を重ねて行く必要
 がある。有意義な発表をしていただ
 き大変感謝している」と事例報告へ
 の謝辞を述べた。

験道に焦点を当て、登山などとの融合や修験道入門を容易にするデジタルツールが開発されたことで復興の動きがあることを紹介し、今後の在り方にも言及した。

続いてコメントーターである同研究所の山中弘客員教授（筑波大学名

て、文化の真正性を含め、その在り方への見解を示した。最後に米国の大学で学び日本宗教史を専門とする九州大学大学院のケイレブ・カーター准教授は「自分を取り戻す／山里を取り戻す」修験道とツーリズムの交錯——とのテーマで日本古来の修

むぎなおすーポーランドに出現した
2・5次元のユダヤ人街」と題
し、映画『シンドラーのリスト』の
ロケ地になったことで注目を集めた
ポーランドの都市クラクフのユダヤ
人街を例に、ユダヤ人住民不在の中
のユダヤ文化と歴史の動きにつ

研究者に聞く



『源氏物語』の表現世界そのものを見つめる

『源氏物語』の、読むことによって顕れ現れてくる世界を見つめたい——それが、研究者としての私の関心です。『源氏物語』は文学作品なのだからその世界に着目するのは当たり前だと思われるかもしれませんが、『源氏物語』とその研究をめぐる歴史を踏まえると、意外とそうとも言えないところがあるのです。まずは、そのあたりを振り返ってみましょう。

立した『源氏物語』ですが、いま、紫式部による自筆原本は存在していません。『源氏物語』は、多くの人々による写本によって伝わってきました。人が手によって写していきますから、誤りも生じますが、積極的に書きかえようとするといったことも起こります。平安時代の末期にはさまざまな『源氏物語』の写本が流通していたようです。そこで鎌倉時代の初期に、藤原定家が不審を拭き

ろーチがありました。ただ、そこで明らかにしようとして試みられてきたことは、結局のところ『源氏物語』はどのような物語なのかということだと言えます。そして、また、それらの研究を通して、どのようなアプローチによるものなのか、『源氏物語』を構築している表現そのものを出発点とするしかないということも明らかになつたように思います。

『源氏物語』の魅力の源泉が『源氏物語』の表現世界そのものにあるかぎり、私はやはり、その世界がどのようなものであるかということ突きつめていきたい。物語表現が、先行する物語、和歌、話型、習俗、信仰、史実等の要素ととり込みながらどのような表現世界を構築しているのか、いま目の前にある『源氏物語』を読み、そこにとどのような世界が顕れ現れてくるのかをしっかりと見つけていく。それが、私の研究のスタンスなのです。

つたと考えられますが、唐猫もまた女三の宮にこの退屈な季節を過ごさせるため、光源氏が女三の宮に唐猫を与えたのは最近のこと。だからこそ唐猫は「まだよく人になつかぬ」とされるのでした。

『源氏物語』に生涯をかけて真正面から取り組む

そもそも私が国文学研究の道に進んだ大きなきっかけは、高校生のときに受けた古典の授業での体験です。それまで古典の勉強といえば、重要古語や文法、古典常識などを暗記すればよいように思っていたのですが、ある授業で、教科書に載っていた和歌を1首ずつ担当して調べたものが発表するということがあったのです。私に割り当てられたのは、『新古今和歌集』の俊成女のお歌でした。

高校の先生からは、『源氏物語』の研究は面白いけれど、すでに多くの研究がなされているから、まだ研究があまり進んでいないというふうに思っていました。平安時代の末期にはさまざまな『源氏物語』の写本が流通していたようです。そこで鎌倉時代の初期に、藤原定家が不審を拭き

に顕現するものと考えることができると、その表現の現れ方には思い込みがあった。山茶花はそこに咲いていて、見るものに古代の記憶が現れ出て来るということを通じていきます。『源氏物語』もまたそれを読むものの中に

踏まえるのはもちろんのこと、物語が読み継がれてきた歴史をも押さえることが、表現を丹念に読み込むことによつて、初めてその表現世界は生き生きとした姿を現してくるのだと考えています。折口信夫、そして折口に師事した国文学者・高崎正秀先生の方法も踏まえながら、私は『源氏物語』を読んできているのです。

なかなか難しいことですが、私たちは、私たちの方から『源氏物語』に近づいていくほかはありません。『源氏物語』の時代、人々は何を見、何を聞いて、どのようなことを思い、感じていたのか。物語の表現は、もちろんのこと、他の文学作品のほか、史料なども丹念に読み込み、近接の諸科学の成果をも踏まえながら、表現世界を生き生きととらえる「読み」を、これから実践していきたいと考えています。

「梅枝」巻から見る表現世界の姿

『源氏物語』の一つの場面を取り上げてみましょう。「梅枝」巻には、かねて光源氏の仲について噂のあった、朝顔の姫君という女性が登場します。光源氏からその面白さがわかってきつつあるうちに、少しずつ

『源氏物語』の「梅枝」巻に、こんな面を取り上げてみました。う歌も記されていました。さて、この場面で気になるのは、梅の花が満開の折に、朝顔の姫君がなぜわざわざ「散りすきたる梅の枝」を送ってきたかという点です。歌の中には「散りし枝」ということばも見えます。歌の内容を可視化したものであったのしょうが、なぜ入内のお祝いの品に「散りすきたる梅の枝」なのか。

現在、朝顔の姫君の歌の中の「散りにし枝」には、朝顔の姫君自身の老いの哀感が込められているとも解釈されます。朝顔の姫君は、その歌に、自分はもう老いて花が散った梅の枝のようだという気持ちを込めて送ってきたとする解釈ですが、どうでしょうか。

このふたりの儀礼的なやりとりには相手に対する信頼が必要で、朝顔の姫君は光源氏がどのような反応を示すかを予期して、花の散った梅の枝を送り、光源氏は朝顔の姫君の意図を瞬時に理解して満開の梅の枝を返しているのでしょう。ふたりは阿吽の呼吸でそうしたやりとりをしているのですね。こうしたことができることが朝顔の姫君の魅力であり、朝顔の姫君が光源氏と絶妙な距離を保ちながら長年交流できた理由にもなっていると考えています。

『源氏物語』という文学時代を背景として、そうした解釈は、平安時代という時代を背景として、『源氏物語』という文学

『源氏物語』の、読むことによって顕れ現れてくる世界を見つめたい——それが、研究者としての私の関心です。『源氏物語』は文学作品なのだからその世界に着目するのは当たり前だと思われるかもしれませんが、『源氏物語』とその研究をめぐる歴史を踏まえると、意外とそうとも言えないところがあるのです。まずは、そのあたりを振り返ってみましょう。

立した『源氏物語』ですが、いま、紫式部による自筆原本は存在していません。『源氏物語』は、多くの人々による写本によって伝わってきました。人が手によって写していきますから、誤りも生じますが、積極的に書きかえようとするといったことも起こります。平安時代の末期にはさまざまな『源氏物語』の写本が流通していたようです。そこで鎌倉時代の初期に、藤原定家が不審を拭き

ローチがありました。ただ、そこで明らかにしようとして試みられてきたことは、結局のところ『源氏物語』はどのような物語なのかということだと言えます。そして、また、それらの研究を通して、どのようなアプローチによるものなのか、『源氏物語』を構築している表現そのものを出発点とするしかないということも明らかになつたように思います。

『源氏物語』の魅力の源泉が『源氏物語』の表現世界そのものにあるかぎり、私はやはり、その世界がどのようなものであるかということ突きつめていきたい。物語表現が、先行する物語、和歌、話型、習俗、信仰、史実等の要素ととり込みながらどのような表現世界を構築しているのか、いま目の前にある『源氏物語』を読み、そこにとどのような世界が顕れ現れてくるのかをしっかりと見つけていく。それが、私の研究のスタンスなのです。

つたと考えられますが、唐猫もまた女三の宮にこの退屈な季節を過ごさせるため、光源氏が女三の宮に唐猫を与えたのは最近のこと。だからこそ唐猫は「まだよく人になつかぬ」とされるのでした。



久我家蔵入本『源氏物語』若菜上(国学院大学図書館所蔵)

経済学部生が学内外で学びの成果を発揮

◆経済学部1年生が基礎演習 プレゼン大会で提案

経済学部1年次開講の選択必修科目「基礎演習B」では、毎年、学外の企業や団体から提示された課題についてグループワークで解決策を立案する課題解決型学習（PBL）に取り組んでいる。この授業のプレゼンテーション決勝大会が昨年12月13日、渋谷キャンパスで開催された。

今年度の課題は「渋谷区の特徴と課題を指摘し、渋谷区的环境をより魅力的にするための具体的な方法」を提案

すること。全クラス120チームが練り上げたプランの中から、6チームが決勝に進出した。

優勝に輝いたのは、訪日外国人旅行者への対応について提案した細谷圭教授クラスのチーム。旅行者と案内を行える日本人をつなげるアプリや案内ツアーなどのプランを提案した。

◆ゼミ成果発表会

経済学部の「ゼミ成果発表会2023」が昨年12月17日に開催された。この発表会は専門性の異なるゼミ同士が質疑応答や情報交換を図り、知的刺激

を与え合うことを目的として平成30（2018）年度より実施している。

各ゼミの学生らがこれまでの成果を発表し、ゼミ加入前の1年生や学生の父母らも見学を訪れ、ゼミ生たちの発表に熱心に耳を傾けていた。

◆神奈川産学チャレンジプログラム

一般社団法人神奈川経済同友会が主催する「神奈川産学チャレンジプログラム」の表彰式が昨年12月12日にパシフィコ横浜会議センターで開かれ、本学経済学部から根岸毅宏教授ゼミと星野広和教授ゼミの学生らが参加し



た。このプログラムは同会の会員企業および団体と神奈川県内の大学が中心となって、産学連携による学生の人材育成を目的とした課題解決型研究を行うもの。37社が示した経営課題となるテーマに対し、18大学186チーム（887人）が解決案を提案。本学からは根岸教授ゼミから参加したチームが最優秀賞を受賞した＝写真。

インフォダイジェスト

…在学生 …保証人 …卒業生 …一般 …受験生
内容 日にち 時間 場所 対象 定員 料金 申し込み 問い合わせ

大学からのお知らせ

令和6年能登半島地震により 被災された皆さまへ



1月1日に発生した能登半島地震により、被害にあわれた皆さまに対し、心からのお見舞いと、一日も早い復旧をお祈り申し上げます。災害救助法が適用された地域に主たる家計支持者が居住し、家計の急変で今後の学業生活に支障をきたすおそれのある学生は、保証人（ご父母等）と相談のうえ右記の大学各窓口までご相談ください。

岡崎正継名誉教授 逝去

国学院大学名誉教授の岡崎正継氏が12月21日に逝去。89歳。葬儀は既に執り行われた。

岡崎氏は昭和9年生まれ。36年国学院大学文学部卒業、38年同大学院日本文学研究科修了。国学院大学文学部兼任講師などを経て、42年同専任講師。46年助教授、55年教授。平成11年自己都合退職、同年名誉教授。在職中、学生部長、文学部長などを歴任したほか、国学院大学北海道短期大学部第5代学長を務めた。

専門は国語学。博士（文学）。著書に『国語助詞論攷』（おうふう）、『古典文法』（秀英出版）、『中古中世語論攷』（和泉書院）などがある。

適用対象地域は本学HPや内閣府防災HPで確認してください。

問▶学生生活課（☎03・5466・0145）
▶たまプラーザ事務課（☎045・904・7700）
▶大学院事務課（☎03・5466・0142）

2・3月中の事務室開室および 証明書発行機稼働日程



2・3月中の事務室の開室と証明書自動発行機の稼働

働日時は、渋谷・たまプラーザキャンパスとも本学HPを参照してください。

大学院学位記授与式



内大学院の第72回学位記授与式を以下の通り執り行います。

日・時 3月19日(火)11時～

場 常磐松ホール

問 大学院事務課（☎03・5466・0142）

キャリアサポート



※詳細確認・申し込みはK-SMAPYⅡから行ってください

模擬面接指導会（対面）

模擬面接で選考に向けて最終チェックをしよう！
面接力の強化と最終チェックを目的に行います。採用選考の面接では、フィードバックがないため、どこが良くてどこが悪かったのか分からず、同じ過ちを繰り返してしまう危険性があります。採用試験解禁前に自分の面接内容について、実際の企業の採用担当者から実践的なアドバイスをもらえる貴重な機会ですので、本番対策として積極的に参加してください。

日 2月20日(火)・21日(水)

時 いずれも12時30分～17時

対 3年生・修士1年生

学内合同企業説明会（WEB・対面）

優良企業と出会い、応募につなげよう！
本学学生を採用する意欲が高い企業が参加する合同説明会です。一日で多くの企業と出会うことができます。この機会に業界・企業・職種研究を進めるとともに、自分にあったオンリーワン企業を探しましょう。WEB・対面で開催します。

日▶WEB＝1月31日(水)

▶対面＝2月7日(水)・8日(木)

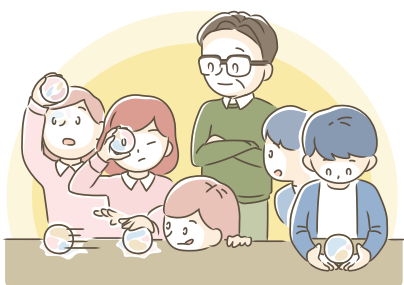
時 いずれも10時30分～16時20分

場 120周年記念1号館

対 3年生・修士1年生

今年度は、「大学で学ぶとは」、特に「国学院大学で学ぶとは」をテーマに述べて来ましたが、「学習から学修へ」「修理・固成の学び」「つくる」教育から「育つ」「育る」「人育てへ」「神社学校」などの文言が飛び交いました。この視点から、「大学の学び」を5点に集約して、入学式で講話したことがあります。ここでは紙幅の都合上、以下の1点に絞って述べたいと思います。それは、「真理」と「真実」の追究をということ。

「真理」とは、科学社会学という専門分野では、客観的な出現の確率の高さを言います。例えば、1+1=2。これは学校教育における「学校知」です。しかし、実相に基づく「経験知」では、そのようなことはある意味、稀な現象かもしれません。喧嘩してマイナスになったり、何も生まれず0で終わる。また逆に、1+1が、3にも4にも、5にも発展することがあります。スポーツの世界では通常のことです。



嘗てアメリカの市民団体がアフリカに粉ミルクを送った美談が、高校の「公民」の教科書に掲載されました。確かに「真理」としては、ボランティア活動例として挙げるにふさわしい活動です。しかし、「真実」はと言え、たくさん乳児の死者を出しました。そこには、泥水で粉ミルクを溶かざるを得ない厳しい社会インフラの実相があったからです。実は、社会科学以上には、自然科学から言え、自然現象も仮説通り検証されること（真理）は少ないのです。ノーベル賞級の研究というのは、多くが「真理」追究ではなく「真実」追究の結果の新たな「真理」の発見なのです。それを「パラダイム転換」と呼称します。

近くて遠い？ 遠くて近い？ そんな親の気持ちや子どもの気持ちを一緒に考えませんか？ 新富名誉教授による子育てエッセーを隔月でお届けしています。読者の感想や新富名誉教授への質問をお待ちしています。

「単眼（学習）」ではなく、「複眼（学修）」の学びを



名誉教授 新富 康央

しんとみ・やすひさ
学校法人国学院大学特別参事。人間開発学部初代学部長、専門は教育社会学、人間発達学。新しい時代の子育て論には定評。

箱根駅伝往路選手コメント「後輩に“てっぺん”の夢託す」



伊地知選手



青木選手(左)・平林選手



辻原選手(左)・上原選手

1区 伊地知賢造 (健体4) | 区間**17**位 | 1時間2分35秒

思うようにいかない走りだったが、思い切ったレースができたのは2区から10区で強力なメンバーがいてくれたから。最後まで頑張ってくれた仲間たちに救われた。サポートメンバーや今まで支えてくれた皆さんに感謝したい。後輩たちに“てっぺん”の夢を託したい。

2区 平林清澄 (経営3) | 区間**3**位 | 1時間6分26秒

伊地知さんの攻めの走りを見て、自分もスイッチが入り、最初から攻めの走りができた。5位は悔しいが、今回走ってくれた1、2年生の勢いが結果に貢献してくれた。来年は全員が笑って終われるよう

なチームをしっかり作っていききたい。2日間の応援に感謝したい。

3区 青木瑠郁 (健体2) | 区間**4**位 | 1時間1分56秒

前회가悔しい結果だったのでリベンジをと今大会に臨み、強い気持ちで走り出せた。伊地知さんを必ず嬉し泣きさせるんだとメンバーたちにも声をかけたが、果たせず悔しい。来年は伊地知さんに“よくやった”と言ってもらえる結果を出せるよう、また1年頑張りたい。

4区 辻原輝 (史1) | 区間**4**位 | 1時間1分59秒

皆さんの応援で走ることができた。4区は生まれ育った二宮を走る区間で、いつか必ず走るんだと小

さい頃から夢見てきた。もっと強くなりチームの柱となれるよう努力して、国学院の4区には辻原がいるから大丈夫だと思ってもらえるような選手になりたい。

5区 上原琉翔 (健体2) | 区間**17**位 | 1時間14分11秒

今まで走ってきた中で一番悔しい結果だった。来年はもっと強くなり結果を出したい。メンバー外になった4年生も最後までチームを引っ張ってくれる姿を見せてくれたおかげで、チーム一丸となれ感謝しかない。今までの先輩の思いも継いで来年に向け頑張りたい。

写真・月刊陸上競技

柔道部

モナコ国際柔道大会で2連覇 団体日本代表で6選手が活躍

第28回モナコ国際柔道大会が昨年12月10日、モナコで開催され、国学院大学柔道部6選手と慶応義塾大学柔道部1選手の連合チームが見事に2年連続の優勝を飾った。

この大会はモナコ柔道連盟が主催し、招待された各国柔道代表チームに加え欧州柔道連盟所属チームや強豪クラブチームなど全11チームが参加。試合は7人による階級ごとの団体戦で行われた。本学柔道部は慶応義塾大学と連合チームを編成し、同部からは60kg級の宮部真臣選手(観まち2)、66kg級の猪瀬真司選手(健体2)、73kg級の大家遥人選

手(神文3)、81kg級の騰川雄一郎選手(法4)、90kg級の中村俊太選手(健体3)、100kg級の清水雄護選手(経2)が出場した。

予選は5チームのリーグ戦で行われ、連合チームは各国・欧州の強豪クラブチームを相手に3勝1敗で2位の成績で勝ち上がった。決勝トーナメントに進むと、ウクライナ代表との準決勝は5-2で勝利。決勝戦では予選リーグで敗れたフランスのクラブチーム「Sainte Genevieve des Sports」と対戦し、4-3で勝利し優勝した。また、個人としては大家選手がオール一本勝ちでMVPを受賞した。



今大会も優勝を飾った国学院大・慶応義塾大連合チーム(同部提供)

ソフトテニス部

総理大臣杯準優勝 関東大学選抜・高校選抜対抗戦大会 優勝・準優勝

第57回総理大臣杯全日本学生選抜ソフトテニスインドア選手権大会が昨年11月23日に小田原アリーナ(神奈川県)で開催された。国学院大学ソフトテニス部からは男女1ペアずつが参加し、久保田茜

選手(日文3)と原千晴選手(中文3)ペアが準優勝に輝いた。

同大会は全日本ランキング上位12チームのみが参加できる、大学生最高峰のインドア選手権。予選リーグを1位で通過した久保田選手・原選手ペアは準決勝の神戸松蔭女子学院大学戦では相手の巧みな戦術にも安定的な戦いぶりを見せ、5-3で勝利。決勝では日本体育大学と接戦を繰り広げたが3-5と惜しくも敗れ、準優勝となった。

また、11月25、26日には、関東大学選抜・高校選抜ソフトテニス対抗戦大会が熊谷スポーツ文化公園(埼玉県)で開催された。同大会は関東の大学・高校の上位選抜校による男女別のダブルス3組によるチーム対抗戦で、同部からは、男子1チームと、女子はA・Bチームの2チームが出場。Aチームが女子1位トーナメントで初優勝を飾った。女子予選



総理大臣杯で準優勝した久保田選手(左)・原選手(同部提供)



関東大学選抜対抗戦大会で初優勝した女子Aチーム(同部提供)

リーグではAチームが2勝0敗の1位で1位トーナメントに進出。Aチームは準々決勝、準決勝と順調に勝ち進んだ。決勝の明治大学戦では、鈴木心菜選手(子支2)・鈴木叶選手(中文1)ペアが接戦の末2-4となるも、庄司琴里選手(初教3)・高嶺心萌選手(中文2)ペアが4-2、久保田選手・原選手ペアが4-3と激しい戦いを繰り広げながら勝利を重ね、初優勝をつかんだ。Bチームは2位トーナメント決勝で早稲田大学に敗れるも、準優勝となった。男子チームは男子の部で3位となった。

陸上競技部

箱根駅伝 総合5位 下級生が来年に向け好走見せる

東京・大手町から神奈川・芦ノ湖畔を全10区間217.1kmでつなぐ第100回東京箱根間往復大学駅伝競走が1月2、3日に行われ、国学院大学陸上競技部は総合5位となり、6年連続でシード権を獲得した。

1区の主将・伊地知賢造選手（健体4）は、序盤から飛び出した駒沢大学と駿河台大学を追う積極的な走りを見せた。後半苦しくも粘りを見せ17位で2区の平林清澄選手（経営3）へ襷リレー。2年連続でエース区間を担った平林選手は、快調なペースで先行する大学を次々と捉える快走で同区の要所である権太坂や中継所手前の「戸塚の壁」と呼ばれる上り坂でも勢いは衰えずに8人抜きでチームを9位まで押し上げた。3区の青木

瑠郁選手（健体2）も一時は3位に浮上する力強い走りを見せ、創価大学、早稲田大学、東京農業大学と3大学を抜き6位に浮上。4区の辻原輝選手（史1）は初の大学駅伝ながら日本大学を追い抜き5位で5区の上原琉翔選手（健体2）へ襷をつないだ。雨が降る悪コンディションとなる中、箱根の山に挑んだ上原選手は早稲田大学にかわされたものの、懸命な走りを見せ5時間27分7秒の6位で芦ノ湖畔にゴールした。

6区の後村光星選手（健体1）は先行していた早稲田大学との差を冷静に縮め、9km手前で追い抜き5位に浮上。最後は創価大学に先行されたが6位を維持した。7区の田中愛睦選手（経1）は襷を受け取った時点で21秒先行していた創価大学との差を8秒にまで縮める好走を見せた。8区の鎌田匠馬選手（経2）は創価大学を追走すると、約17km地点でその背中を捉え5位へ。そのまま後続との差を広げ9区の吉田蔵之介選手（経1）に襷を託した。吉田選手も大学駅伝デビュー戦ながら終始安定したペースを刻み、5位を守りきった。最終10区は高山豪起選手（法2）が9人のつないできた襷を胸に走りきり、大手町のゴールに飛び込んだ。目標の3位以内には惜しくも届かなかったものの、下級生が次大会につながる走りを見せ、10時間55分27秒の総合5位となった。



総合5位でゴールテープを切った高山選手

第100回 箱根駅伝総合成績		
順位	大学名	総合記録
1	青山学院大学	10:41:25
2	駒沢大学	10:48:00
3	城西大学	10:52:26
4	東洋大学	10:52:47
5	国学院大学	10:55:27
6	法政大学	10:56:35
7	早稲田大学	10:56:40
8	創価大学	10:57:21
9	帝京大学	10:59:22
10	大東文化大学	11:00:42

以上、シード権獲得（以下略）

復路選手コメント「襷の汗と想いが力になった」



後村選手（左）・田中選手



鎌田選手



吉田選手



高山選手

6区 後村光星（健体1） | 区間**10**位 | 59分37秒

初めての箱根駅伝で重圧を感じることもあったが、往路の先輩たちの走りを見て、自分もしっかり走るんだという気持ちになった。前半は攻めの走りができたが、後半では力不足を感じた。優勝を目指すチームに貢献できる力をつけて、来年の箱根路に戻ってきたい。

7区 田中愛睦（経1） | 区間**7**位 | 1時間3分29秒

大会の1週間前から緊張していたが、伊地知さんをはじめ一緒に練習する先輩たちの走りを見て、自信を持てた。レース後半での課題を突きつけられたので、もっと力をつけ主要区間でも勝負したい。1

年生全員で力を底上げして、チームの強さに貢献していきたい。

8区 鎌田匠馬（経2） | 区間**6**位 | 1時間4分58秒

4年生のためにも、このまま終わるわけにはいかないと覚悟を決めスタートラインに立った。ラスト3kmは苦しかったが、4年生の想いで走ることができた。他大学と並走した時にも思い切った走りが必要だと感じた。このチームで優勝できるよう、頑張っていきたい。

9区 吉田蔵之介（経1） | 区間**7**位 | 1時間10分1秒

伊地知さんの走りを見て、4年生の意地を感じた。青木さんから“伊地知さんを表彰台に上げよ

う”と言われ、その思いで走った。最後3kmで勝負できず悔しい。来年は“てっぺん”を狙って走れるよう、もっと自分の力をつけていきチームに貢献する選手になりたい。

10区 高山豪起（法2） | 区間**10**位 | 1時間10分15秒

伊地知さんを表彰台に上げるんだと思い走った。9人の汗と想いが染み込んだ襷は重かったが、後半つらい場面で襷が自分の力になってくれて最後まで諦めず走れた。目標に届かず5位という悔しさを忘れずにまた1年頑張ってリベンジしたい。多くの応援に感謝したい。

往路選手コメントはⅡ面

写真・月刊陸上競技